

日本英学史学会 第57回全国大会
岩手県立大学アイーナキャンパス
プログラム・研究発表レジュメ

期日 2020年11月1日(日)
会場 岩手県立大学アイーナキャンパス
連絡先 TEL: 0193-64-2230(大学代表番号)
盛岡市盛岡駅西通1-7-1
いわて県民情報交流センター(アイーナ)7階
・大会実行委員長 大前 義幸
〒027-0039 岩手県宮古市河南1-5-1 岩手県立大学宮古短期大学部
E-mail: a.omaie0615@gmail.com
・学会連絡先 日本英学史学会本部事務局
〒193-0985 東京都八王子市館町815-1 拓殖大学外国語学部
塩崎智研究室内
電話: 042-665-3164
Eメール: sshiozak@gmail.com

主催 日本英学史学会

第 57 回 全国大会 プログラム

11月1日(日)

*オンライン (ZOOM) 参加の場合

トピック：日本英学史学会

日時：2020年11月1日 9:30~18:00 (全日程)

ミーティングID：917 4657 2691

パスコード：645344

10:00 受付開始 7階学習室4教室前

支部長会議は、1日開催で、時間的余裕が無く割愛させていただきます。

10:40~11:30 開会式、総会等 学習室4教室

11:30~12:30 写真撮影、昼食 (弁当持参をお願いします)

12:30~16:00 研究発表

16:00~16:10 閉会式

全体司会	事務局長	塩崎 智
挨拶 大会会長	副会長	飛田 良文
挨拶 学会会長		楠家 重敏

総会司会	副会長	西口 忠
------	-----	------

議事 学会活動報告、支部活動報告 (代読を含む)、会計報告、豊田實賞
発表、その他

研究発表 (発表 30 分、質疑応答+次の発表準備 10 分、)

7階学習室4教室

●第1部 司会：西口 忠

- ① 12:30 - 13:10 田辺 陽子 「明治期の CMS アイヌ学校におけるローマ字教育」
- ② 13:10 - 13:50 赤石 恵一
「札幌農学校教授 W. P. Brooks 交友録：その書簡にみる滞日・在日外国人との関係」
- ③ 13:50 - 14:30 大前 義幸
「夏目漱石の作品における他の作家からの影響—『坊ちゃん』を中心に—」

休憩

●第2部 司会：保坂 芳男

④ 14:40 - 15:20 増井 由紀美

「朝河貫一の「ハムレット論」再考—日米のシェイクスピア受容について考える—」

⑤ 15:20 - 16:00 楠家 重敏

「アーネスト・サトウ *A Diplomat in Japan* の史料学的検討」

16:00 閉会式

<大会参加>

*本学会 HP の全国大会参加申込フォームから参加申込を入力すること。

大会参加費 2000 円です。当日受付にてお支払いください。釣銭の無いようお願いいたします。

*大会出席の折には、必ず本プログラム・研究発表レジュメをご持参ください。

*大会中、会場内は禁煙ですので、所定の場所以外での喫煙はご遠慮願います。

*お一人の発表時間は 30 分＋質疑応答＋準備 10 分です。時間厳守をお願いいたします。発表時にレジュメを用意される方は、20 部印刷してお持ちください。

*MAC ユーザーは、アダプターを持参ください。また、マイクロソフトユーザーの場合も、パワーポイント使用の際、メモ機能が使えませんが、メモ入りの原稿を印刷してお持ちください。

*本年は、開始時刻が午前 10 時 40 分となっています。

*集合写真はデジタル撮影し、参加者には E メールか HP でデータを入手できるよう手配します。インターネットが使われない参加者には印刷して郵送させていただきます。

*一般参加者はコロナウイルス感染拡大防止において禁止となります。

ご了承くださいませ。

■岩手県立大学アイーナキャンパス

〒020-0045 岩手県盛岡市盛岡駅西通 1 丁目 7-1

いわて県民情報交流センター7F

TEL. 019-606-1770 (代表)

<<交通>>

・盛岡駅下車、徒歩約 7 分

<<宿泊案内>>

・各自で宿泊予約してください。御予約をするときは、旅行会社 HP の Go To キャンペーンを使用すれば最大 35%割引になります。

東横 INN 盛岡南 (徒歩約 2 分)、ルートインホテル盛岡駅前(徒歩 2 分)、ホテル JIN(徒歩 5 分)、エースホテル盛岡(徒歩 12 分)、ホテルニューカーリーナ(徒歩 12 分)など

【会場案内図】



日本英学史学会第 57 回全国大会

研究発表レジュメ

研究報告 第 159 号

学会役員一覧

○第 57 回全国大会役員

大会会長	飛田 良文 (本学会副会長)
大会実行委員長	大前 義幸 (岩手県立大学宮古短期大学部)
大会実行委員	大前義幸、塩崎智、赤石恵一、保坂芳男

日本英学史学会第57回全国大会

研究発表レジュメ

研究報告 第159号

1. 田辺 陽子
「明治期の CMS アイヌ学校におけるローマ字教育」
2. 赤石 恵一
「札幌農学校教授 W. P. Brooks 交友録：その書簡にみる滞日・在日外国人との関係」
3. 大前 義幸
「夏目漱石の作品における他の作家からの影響—『坊ちゃん』を中心に—」
4. 増井 由紀美
「朝河貫一の「ハムレット論」再考—日米のシェイクスピア受容について考える—」
5. 楠家 重敏
「アーネスト・サトウ A Diplomat in Japan の史料学的検討」

明治期の CMS アイヌ学校におけるローマ字教育

田辺 陽子

CMS (Church Missionary Society・英国聖公会宣教協会) は、1799年にロンドンに設立された英国国教会系の伝道組織である。日本へは明治初期に宣教師を初めて派遣し、特に北海道においてはジョン・バチラーを中心にアイヌの人々に対する伝道活動を一手に担う存在となった。教育に関して言えば、1888年にバチラーが伝道活動の一環として幌別に「愛隣学校」を設立したのを皮切りに、CMSは1906年までの間に全道10ヵ所以上のアイヌ・コタンやその周辺に小規模な「アイヌ学校」を開設した。こうしたCMSアイヌ学校の多くは教育機会が少ないアイヌ子弟に対する慈善学校的な側面が強かったようだが、現存する史料は限られており、詳しい授業内容やカリキュラムについては不明である。その中で、比較的史料が残っている函館アイヌ学校において、日本語やアイヌ語の読み書き、聖書、算数、音楽の授業などが行われていたことが判明しているのみである。

そこで、今回はバチラーが1887年(初版)と1894年(第二版)に出版したアイヌ語によるローマ字入門書『HOSHIKI NO AN ORO-OITAK EPAKASHINU KAMBI-SOSH』に着目し、CMSアイヌ学校におけるローマ字によるアイヌ語識字教育の内容について報告したい。具体的には、バチラーのローマ字入門書の(1)構成、(2)内容と特徴、(3)意義について考察し、初版と第二版の内容比較も行う予定である。バチラーは『アイヌ語讚美歌』や『アイヌ語祈祷書』、『新約聖書』のアイヌ語全訳など数多くの翻訳書を出版しているが、アイヌ語で書かれたローマ字入門書についてはFreyの博士論文(1997)以外にはこれまで取り上げられたことがほとんどない。アイヌ語で執筆されているためか、管見の限り日本人研究者による報告は皆無である。今回の研究発表を通して、CMSアイヌ学校におけるローマ字教育やアイヌ語表記の歴史的変遷について新たな光を当てられたらと考える。

札幌農学校教授 W.P. Brooks 交友録：

その書簡にみる滞日・在日外国人との関係

日本大学工学部 赤石 恵一

William Penn Brooks (1851-1938) は札幌農学校創成期の農学教授兼校園長である。その在職期間は 1877 年から 11 年 10 カ月に及び、創成期の外国人教員の中では最も長い。農学校にあっては専門の農学を教授した他、英語科目も担当して所謂「英語名人世代」の英語熟達度にも貢献、心得ではあったが初代 W. S. Clark 以来続いた「教頭 (president)」職を担った最後の外国人教員となった。課外にあっては校園における農業の実践・実験の他、農業博覧会を導入、公立学校や各所で講演を行って北海道における近代農業の礎を築いた。Brooks の札幌農学校在職中の書簡は Massachusetts 大学 Amherst 校にある。書簡の精査から、Brooks が東京や函館等の外国人教師、宣教師、外交官たちと幅広い交流があったことが明らかとなった。本発表ではその書簡中に現れる滞在・在日外国人に焦点をあて、その交流の時期、内容、Brooks の印象につき紹介する。札幌農学校が当時の札幌における近代文化の中核であり、札幌で研究、教育、宣教、観光を行う滞日・在日外国人にとり、Brooks から外国人教員が言わば、その案内役、接待役であったことが分かる。各界の要人を含む若き日のこのような体験は本国では得難かったであろう。帰国後、Brooks は母校 Massachusetts 農科大学学長代理まで務めることになる。

夏目漱石の作品における他の作家からの影響 — 『坊ちゃん』を中心に —

岩手県立大学宮古短期大学部 大前 義幸

明治時代を代表する日本近代小説家と言えば、夏目漱石(1867-1916)に多くの票が集まるだろう。彼は、小説家になる前に東京帝国大学文科で英語講師として教鞭をとり、その前は文部省から英語教育の研究と言う理由から国費留学生としてイギリスへ2年間の留学生生活を過ごしている。

小説家になる前の彼は、イギリス文学を研究しており、イギリス留学から帰国すると東京帝国大学の講師として多くの学生に英文学や文学論の講義を行っていたが、1905(明治38)年1月に『ホトトギス』へ『吾輩は猫である』を発表し、その後、1906(明治39)年4月には同雑誌へ『坊つちゃん』を発表した。

処女作『吾輩は猫である』は、猫の視点から人間の風刺を描いており、物語全体のバランスを考えても、前半と後半には物語の統一性が欠けていると多くの批評家から指摘されている。しかし、第2作目『坊つちゃん』においては、物語冒頭から江戸っ子気質の主人公が縦横無尽に動き回り、勧善懲悪のストーリーが展開されている。

本発表では、処女作と第2作目の間には1年しか違いはなく、その間に小説執筆に関して漱石自身に何か大きく変わった原因があるとは考えられない。おそらく何か別の理由があって作風が変わったのではないかと考えられる。夏目漱石が『坊つちゃん』を執筆するにあたって、どのような創作過程があったのを考察してみたい。

朝河貫一の「ハムレット論」再考

一日米のシェイクスピア受容について考えるー

敬愛大学 増井由紀美

1914年1月17日、朝河貫一(1873-1948)はニューヨークのシューベルト劇場でイギリス人役者サー・フォーブス・ロバートソン(1853-1937)主演の『ハムレット』を鑑賞する。還暦を過ぎた引退公演で青年を演じ上げた役者に魅了された朝河は「ハムレット論」(未発表原稿)を書き上げ、これを役者本人に送付する。イエール大学の同僚や知的交流を文書で頻繁に交わっていた友人たちにも渡し、感想を求め、推敲を繰り返した。朝河本人は、これを学術論文ではないと断っているが、東京専門学校(現早稲田大学)文学科第3期生として坪内逍遙から直接指導を受けた国際的学者による真摯な演劇評である。

この未発表論文(英文)については拙論「朝河貫一—明治の国際人—」(2006年)で取り上げたが、舞台批評、或いは演劇論として分析するのではなく、朝河の哲学・思想を読み解くことを主眼にその内容を細かく解説した。あれから14年経つが、その間、私自身英学史学会に入会し、「英学」について考え学ぶ機会が与えられた。本研究では(1) 渡米以前に朝河が受けた英語・英文学教育と明治のシェイクスピア受容、(2) 大正のシェイクスピア受容、(3) 同時代のアメリカのシェイクスピア受容の3点について整理しつつ、シェイクスピア文学のグローバル化という視点で朝河の「ハムレット論」の読み直しを試みたい。

アーネスト・サトウ A Diplomat in Japan の史料学的検討

楠家 重敏

アーネスト・メイソン・サトウ (Ernest Mason Satow, 1843~1929) の回想録 A Diplomat in Japan は幕末の日本の政情を垣間見ることができる史料として重要な価値を持ち、彼の日記と記憶、さらに外交文書などを駆使して書き上げた著作である。この回想録の対象期間は 1862 年 9 月 8 日から 1869 年 2 月 24 日までである。この期間でサトウが日記を書いたのは 458 日間である。滞在期間は 2362 日間であったから、全体の 2 割弱しか日記を書いていない。この日記を補うものとして、サトウの読書ノートがあり、日記との重複期間を除いても 20.91%に過ぎない。回想録の第 1 章から第 4 章までは時代背景を叙述したものであるから、記憶に頼ることになる。サトウの日記との関連が生ずるのは、サトウが日本の土を踏んだ 1862 年 9 月 8 日の記事で始まる第 5 章からである。

回想録の序文には「本書の前半部分は、イギリス公使（総領事）の職位を得て、シャム（タイ）のバンコクに駐在していた 1884 年から 1887 年までの任期に書いたものである」と明記されている。この時期のサトウは回想録の第 21 章までは書き上げていたようである。さらに序文はこう綴る。「1887 年にシャムを出立したころから、私はこの未完成の原稿を放りっぱなしにしておいて、1919 年 9 月まで読み直すこともなかった」。サトウは 1919 年 9 月 19 日から回想録の第 22 章の筆を執った。そして、1920 年 2 月 11 日に念願の回想録を書き上げた。校正作業を経て、1921 年 2 月にめでたく上梓の日を迎えた。

サトウの回想録にはどのくらい信憑性があるのだろうか。つまり、1921 年の回想録が 1860 年代の体験を正確に物語っているか、さらに、1938 年、1943 年、1960 年に刊行された日本語訳本が事実を正確に伝えているか、という問題である。回想録には、サトウの (1) 記憶違い、(2) 勘違い、(3) 事実未確認による類推、がかなり存在してる。一方、日本語訳本には、(1) 削除・伏字、(2) 省略、(3) 訳し忘れ、(4) 誤訳、が多数ある。それらの原因がどこにあるのを分析していく。